

（８）休憩・便益施設の整備状況

これまでの公園整備により、指定地内には３箇所（有料施設内および城址会館脇は除く）のトイレがある。いずれのトイレもバリアフリー設備が完備され利便性が高い。

ベンチについても公園整備によって指定地全域に設置されたが、中には経年劣化が進んでいるものや、ほとんど使用されていないものがある。



休憩（ガイドンス）・トイレ



トイレ



トイレ



四阿



パーゴラ・ベンチ



ベンチ

（９）歴史的建造物および再建城郭建築の保存状況

いずれの建物についても耐震診断および耐震補強が必要な状況にある。そのため、奈良県指定文化財の旧奈良県立図書館については、内部公開を１階に限定している。建物本体の老朽化に限らず、設備も旧式化している。



旧奈良県立図書館



追手門



追手東隅櫓・東多聞櫓

<サイン>

●	案内サイン
●	名称サイン
●	説明サイン
●	誘導サイン
●	掲示サイン
●	注意・利用案内サイン

<休憩・便益施設、建物>

■	ベンチ・縁台・四阿
■	トイレ
■	歴史的建造物・再建城郭建築

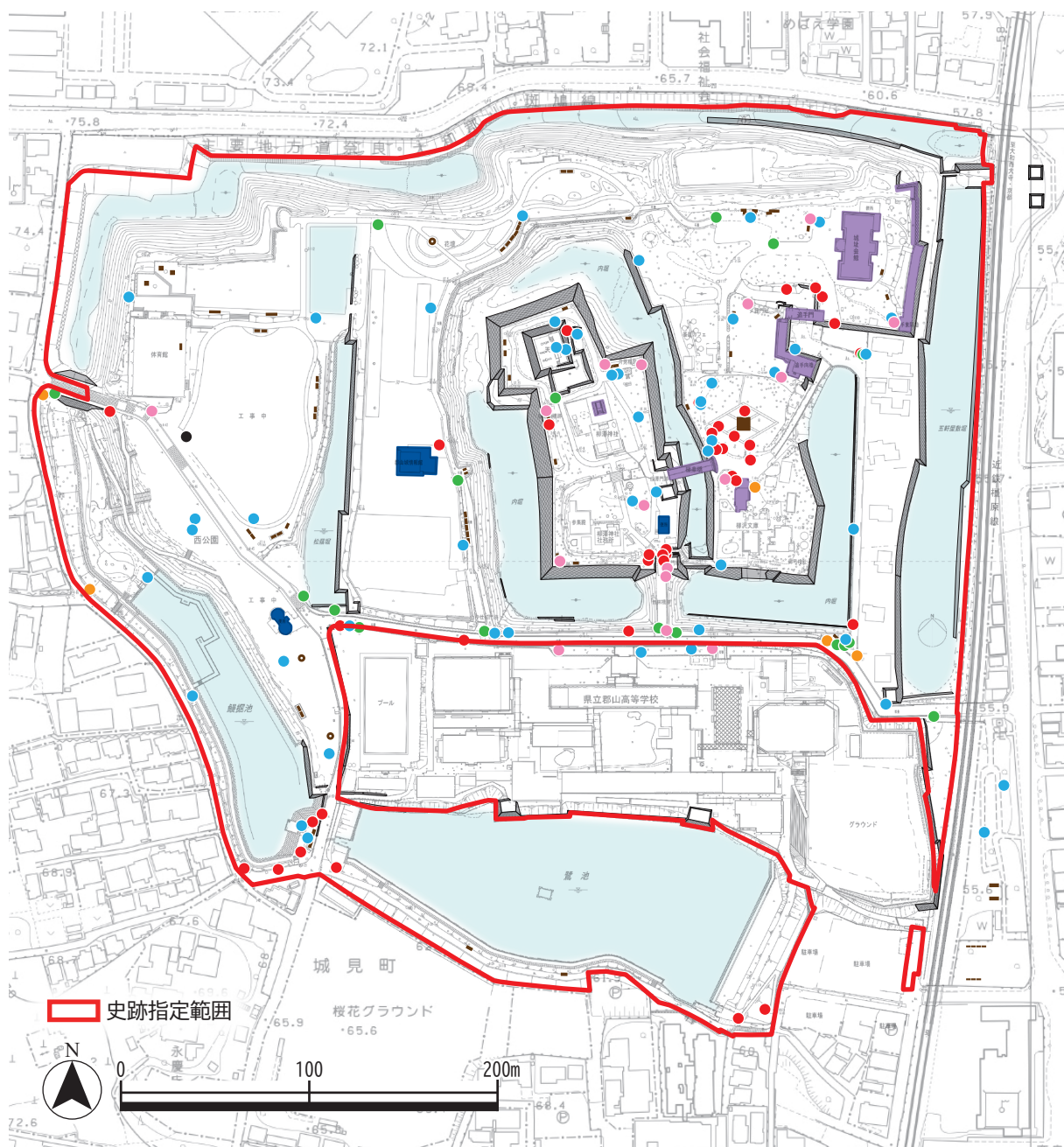


図 3-18 サイン・休憩・便益施設の整備状況

(S=1/3,500)

(10) 桜・松の生育状況

桜と松は廃城後の活用の歴史を伝えるものであり、保存活用計画では本質的価値に準ずる価値を構成する要素として区分されている。桜は、図 3-19 に示すように、史跡指定地全体に生育している。松は毘沙門曲輪と常盤曲輪、二ノ丸に集中している。

桜は、大和郡山市における春の代表的な景観を形成しているが、老木化により樹勢が衰え、形姿の不良なものが多い。

	桜
	松



図 3-19 桜と松の生育箇所図

(S=1/3,500)

(11) 景観と眺望の現状

この節では各構成要素の現状についてまとめたが、ここでは複数の構成要素から構成される史跡指定地の景観と、本史跡における価値のひとつである指定地周辺への眺望についてまとめる。

①指定地内の景観

石垣や土坡の現状でも整理したように、草木により隠れているものが多数ある。本丸および周辺では、大規模な石垣が多数残っているにも関わらず、樹木の生長によって城郭としての風情が薄れつつある。また、指定地北辺をめぐる左京堀は、樹木に覆われて堀と認識しづらい状況にあり、その価値や魅力が来訪者に十分には伝わっていない。



②指定地外からの景観

指定地縁辺部の景観は、指定地周辺からの景観と直結するものである。樹木の生長にともない城郭が埋没して、存在感が薄れている部分が多い。



③指定地からの眺望

史跡の最高所である天守台からは、奈良盆地を見渡すことができ、本来は京都や大坂に続く街道も見ることができたと考えられる。しかし、指定地内の樹木が増えて大きく成長したため、眺望が遮られている。

